

医療九条の会・北海道 会報 第1号

発行：2008年6月 発行責任者：猫塚 義夫

札幌市北区北14西3 8-3 TEL(011)758-2648 FAX(011)716-3927 9jyo@dominiren.gr.jp

「9条世界会議」に参加して

共同代表 能條多恵子
(前富良野看護専門学校長)

5月4・5日に幕張メッセで開催された「9条世界会議」に参加してきましたので、簡単ですがここに報告します。

本国際法律家協会会長) 吉岡達也(ピースボート共同代表)の3名が共同代表を務めました。

発端は、国連事務総長の呼びかけ

今、私たちは何をすべきか？

今回、私が「9条世界会議」に参加してみたいと思ったのは、日本が憲法9条で戦争と武力の行使を永久に放棄すると宣言しているながら、世界で3～4位を誇る軍備を持ち、なおかつ、この憲法9条を変えて戦争を合法化しようとしていることを、世界の国々はどのようにとらえているのかを知りたいと考えたからです。

1日目の全体会には予想を超えて7,000人収容の会場に12,000名が押し寄せ、2日目の分科会と合わせて22,000人が訪れるほどの盛会な大会となりました。

「9条世界会議」を日本で開催しようという構想は、2003年のイラク戦争勃発時に、国連事務総長の呼びかけにより生まれた世界的NGOネットワーク「武力紛争予防のためのグローバル・パートナーシップ」(GPAC)が、「日本の憲法9条はアジアの平和の土台になってきた」と指摘し、9条を世界の平和に活用しようとして「グローバル9条キャンペーン」を立ち上げ、日本ではNGOピースボートと日本国際法律家協会が中心となり、世界各国で活動を展開する中で運動がすすめられ生まれたとのこと。

全体会の前半では、広島平和メッセージをもとにつくられた合唱曲「ねがい」が、池田晋一郎の指揮により演奏され、さらに、ベートーベンの交響曲第9番が400名の市民と弁護士により演奏され、会場を盛り上げてくれました。

呼びかけ人には、国内各界のリーダー88人が名を連ね、池田香代子(世界平和アピール7人委員会メンバー、翻訳家) 新倉修(日

基調講演では、北アイルランドのマグワイア氏(ノーベル平和賞受賞者)と米国のワイス氏(ハーグ平和アピール会議議長)から「日本の憲法9条はこの60年間世界中を勇気づけてきた。今、日本の政府は9条を拡大解釈して有名無実にしようとしている。9条をないがしろにすることは、憎しみと暴力の温床をつくり出すことにつながる。今、私たちは何をすべきか？それは、対話である。対話こそ国民一人一人が今できることである」と、力強いピースメッセージが会場中に響きわたり大きな盛り上がりを見せました。また、多彩な海外ゲストの方々から日本の9条の素晴

らしさを訴えた挨拶が次々となされました。さらに、世界11カ国から参加した「9条ピースウォーク」のメンバー（約70名）が、2月24日に広島をスタートして、71日間かけて幕張メッセの会場に到着し会場を盛り上げてくれました。

後半では、多彩なミュージックライブが次々と催され、フィナーレの加藤登紀子のライブが終了したのは夜10時30分をまわっていました。

9条を広める努力を

翌日の分科会も11会場、44分科会が開催されましたが、どの分科会も盛況で、会場に入りきれない分科会もたくさんありました。

私が参加した分科会は、「劣化ウラン兵器の禁止」「東北アジアと米軍再編」「憲法9条とメディア」の3ヶ所でした。

の分科会に参加したのは、以前にフリージャーナリストの西谷文和さんから、劣化ウラン兵器が白血病などの癌ばかりではなく、奇形や神経毒など人体に大きな影響を与えているという報告を聞いて、今回、その背景をもっと深く知りたいと思ったからでした。の分科会では、日本・韓国が米国の世界的な軍事戦略の中で、どのような状況におかれているのかが報告され、今後どのように連帯していくべきかについてお話しされました。

の分科会で各国からの報告を聞きながら、すべてが米国の世界戦略のもとで、グローバルな軍事活動が各地域ですすめられている事実が明らかにされ、米国政府を中心とする世界中の戦争屋たちを私は「人として許せない！」という思いと憤りで胸がいっぱいになりました。

の分科会は、最も注目された分科会で、韓国テレビが取材に入っていたこともあり、マスメディアの重要性について熱い討論が展開されました。その中で、特に印象に残ったのは「9条は神様が日本国民にくれた贈り物ですよ！」「9条を持つ日本は誇りを持つべき

ですよ！」「日本の多くのメディアが改憲政府の視点で世界情勢を見ているのは残念です！」等のメッセージでした。

日本からは、日本ジャーナリスト会議の桂敬一氏が「メディアは憲法9条をどう報道し論じてきたか」というテーマで、日本国憲法を歴史的視点から資料をもとに説明され、その時代の政治的背景とメディア報道の動きがよく理解できました。そして、「九条の会は全国で約7000、その活動に想像力を働かそう！」とメッセージされました。

さらに、朝日新聞の記者をしている伊藤千尋氏からは「世界から見た日本国憲法と日本、そしてメディア」というテーマで、アフリカ沖のカナリア諸島に「日本国憲法九条の碑」が建てられ、「ヒロシマ・ナガサキ広場」と呼ばれていることや、ベネズエラでは、露店で憲法の本が売られていること、日本の次に平和憲法を制定した中南米のコスタリカでは、大統領が「私の国では平和と空気を輸出する！」とあって、実際に実践していることなどが話され、最後に「日本人は9条を広めるために、どれだけ努力してきたか？」「国民として憲法を皆で使おう！活かそう！そして、世界に輸出しよう！」と、力強いメッセージがありました。

今回、9条世界会議に参加しての感想は、一言でいうと「人間まだ捨てたものではない！」との思いが強くなったこと。そして、21世紀の世界に少し希望が湧いてきたことです。

（見出しは、編集部）



自衛隊イラク派兵差し止め北海道訴訟・控訴審
第1回口頭弁論における
控訴人・猫塚義夫氏（当会幹事長・勤医協札幌病院）の意見陳述

2008年5月22日 札幌高等裁判所

控訴人の1人として、いまだ戦闘状態の続くイラクで、アメリカ軍をはじめ多国籍軍と、その戦略物資の輸送に従事している自衛隊に、一刻も早くイラクから撤退してもらいたく、意見陳述を行います。

私たちは、戦争や戦乱が起きれば、必ず生命と生活の安全を確保するために、その国内外に数多くの難民が発生することを経験してきました。

イラク戦争では、すでに400万人の難民が発生し、200万人の国内難民のほか、国外難民として150～200万人のイラク人が隣国シリア・ヨルダンで戦火を逃れています。

私は、本年3月7日から14日にかけて、ヨルダンの首都アンマンとシリアの首都ダマスカスを訪れ、戦火のイラクから逃れてきたいわゆるイラク難民の方々の実態を見てきました。

本日私は、そうした経験に基づいて、イラク難民問題を根本的に解決するためには、イラク戦争を早期にかつ平和的に終結させる事、そして、アメリカのイラク戦争への協力を目的にして

いまだに続いている航空自衛隊のイラク派兵を即刻中止することを訴えるものであります。



まず、最も深刻なのは、イラク戦争の中でアメリカ軍により使用された劣化ウラン弾による生体被害の深刻さです。

その多くは、劣化ウラン弾による放射能汚染・被害を受けた両親のもとに出生してきた子どもたちに多発しています。



私たちの宿泊先を訪ねてきたアリンちゃん2才は、ヒルシュシュプルング氏病という生まれつき大腸の働きのない子どもでした。放置しておくとう腸閉塞により生命に関わる先天性奇形の疾患です。彼女の母親ヘレンさんは2003年当時バクダッドで米軍の劣化ウラン弾による空爆を経験していました。

本年2月に国連とイタリアNGOからの資金援助で人工肛門造設術を受けました。しかし、現在、その後の治療費のめどが立たず、両親も途方にくれている状態でした。

写真 上) アリンちゃんと家族(アンマン) 下) アリンちゃん2才 ヒルシュシュプルング氏病



フセム君 2 才 (アンマン：ルズミラ病院)
先天性鎖肛

次は、アンマンのルズミラ病院 (Luzmila Hospital) で診せていただいた、先天性鎖肛をもって生まれてきたフセム君 2 才です。

バクダッドのアルホルア地方でエンジニアをしていた父親のラシルさんのお話によると、イラク国内での治療が危険となり、ヨルダンへ逃げてきているのです。

ラシルさんは、知り合いにも病気の人々が多く、今はヨルダンに来るイラク人を支援しているとのことでした。



先天性鎖肛とは、生まれながらにして肛門がなく排泄ができません。放置すると腸閉塞により生命が危篤の状態となるため、1 年間に 4 回の手術により人工肛門の装着を余儀なくされていました。

私たちは、未だ危険なイラクにとどまらざるを得ない人々が大勢いることに心を痛めました。



左：フセイン君と家族 (アンマン)

右：フセイン君 10 ヶ月 先天性尿道奇形

アンマンで自宅を訪問した生後 10 ヶ月のフセイン君は、お母様がイラク南部バスラの出身です。彼女は、今までに 1980 年、1990 年、2003 年と 3 度の戦乱を経験していました。

フセイン君は、先天的尿道奇形の状態で数度の手術でも完治することができず、尿失禁の状態が続いているのです。

こうした劣化ウランによる放射能被害と思われる先天異常児の出生は、以前から指摘されているところです。

戦乱のイラクから診断治療のために出国することさえできず、イラク国内で絶命している子どもたちを想像すると、その原因となっているイラク戦争の早期終結を心から願わざるをえませんでした。



UNHCR難民登録センター（ダマスカス）

なんとか、戦乱のイラクから逃れてきた人々の多くが、まず行なわなければならないのが「難民登録」と「難民認定」です。

ダマスカスにある国連難民高等弁務官事務所（UNHCR：The Office of the United Nations High Commissioner for Refugees）が運営する難民登録センターを訪問しました。

そこでは、毎日多くの難民が押しかけていますが、今までに150万人が「難民登録」され、「難民認定」された難民は、16万5000人でしかありません。

1日の「難民登録」は500人程度です。申請をしましたが、実際に「難民認定」



「難民認定」ブース（登録センター内）

登録センター内には、30個の「難民認定ブース」があります。しかし、スタッフの体制が不十分なため、「難民登録」を受け付けられてから「難民認定」の審査が開始されるまで約半年間も待たされるとのことでした。

その間にビザの期限が切れると「不法滞在」となるため、ここに集まってくるイラク難民は、当面一日も早く「難民認

定」されることを切実に願っています。



バーベルさん 35才
銃弾創による脊髄損傷

バーベルさんは、2006年5月、シーア派民兵から腰椎部に銃弾を撃ち込まれ、脊髄損傷となった方です。2007年5月にダマスカスに逃れてきたあとも車いすを余儀なくされていました。

戦乱の中で、かるうじて命が救われたものの、これからの半生を障害を持った体で生活せざるを得ない状態に追い込まれているのです。

しかも、明日を保障されない難民生活との二重苦を背負った状態は、イラク戦争が続く限り解決されることはありません。



ファイサルさん 25才
進行性神経麻痺の青年

イラクにおける人的被害には、直接の外傷と劣化ウラン弾による二次的被害が指摘されています。劣化ウランによる放射能の被害は、被曝した親のもとに生まれてくる新生児の先天奇形として発生しました。

しかし、ここに示すファイサルさん(25才)は、それまで全く正常な身体で生活を送っていた大学生でした。

2003年3月、イラクのサマッラで、11時間にわたるアメリカ軍の空爆を受けた2ヶ月後、四肢麻痺を中心とした精神・機能の低下が発症し、現在では、立位・歩行も困難になってしまいました。

ファイサルさんの母親によると、サマッラのガスヌイル地区では、彼のような人々は18人もいるとのことでした。

この青年に出会って、私は劣化ウラン弾以外にも何らかの「心身破壊兵器」の存在があるのではと思いました。

私たちは、彼に日本から持参した車いすを寄贈し、彼のこれからの日常生活動作の拡大に少しでも手助けになることをこころから願ってきました。



教会での昼食の炊き出し

難民生活の実態を見るため、ダマスカス市内、ジャラナマ地区のキリスト教イブラヒーム教会での昼食の炊き出しを見学しました。

そこでは、困窮する生活の中で家族の昼食を確保するため、時間が近づくと教会の中に列を組んで並びます。

昼食の受け取り

炊き出しの順番を待っている時の表情は、穏やかですが、ちょうどピラフに似た食事が各自の容器に入れられる時の表情は、真剣そのものでした。

私は、難民として生きてゆく人々の生活に対する覚悟と厳しさをかいま見る思いがしました。





難民への“車いす”の寄贈

私たちは、ここでも生後9ヶ月のシャーレス君母娘に日本から持参した車いすを寄贈することができました。母親のマークーンさん(32才)も民兵に脅迫されて1年半前にバクダッドから逃れてきた難民の1人です。



サイダザイナブ地区 (通称：リトルバクダッド)

ダマスカス市内には、通称「リトルバクダッド」と言われるサイダザイナブ地区がありました。そこは、イスラム教シーア派の聖地でもあり、およそ40万人の難民が身を寄せながら暮らしています。

本年3月18日付け毎日新聞は、そこに住むバクダッド近郊出身のサーリムさんの難民生活の様子を報じていました。

彼は、昨年11月、治安が改善されたと聞き、家族全員でイラクに戻りました。しかし、「電気は来ない。街は崩壊」の現実を目の当たりにし、再びシリアへ戻りました。失業率が4割を越すイラクで暮らすのは困難だと判断したそうです。

記事は、続きます・・・・・・・・。

「車や家具を売り2万ドルが手元にあった。だから最初の暮らし向きはそんなには悪くはなかった」とサーリムさんは振り返る。だがそんな生活は長くは続かない。宗派対立が激化し難民の数が増えたからだ。不動産価格は上昇し、何度も住み替えを迫られた結果、現在は8畳ほどの居間と台所だけのアパートに妻と子ども6人、弟の計9人で暮らす。

近くの通りで、携帯電話の中古アクセサリを売り生計をたてる。1日の売上高は多い日で500シリアポンド(約1000円)。「朝、目が覚めたら1シリアポンドもない日がある。この情けなさが分かるか」。サーリムさんのこうした訴えは、過酷な難民生活を伺わせるものです。



身売り 家計支え

故国を離れて

二〇〇四年、バグダードの市場を襲ったテロで父が死に、病弱な母と弟を残し、二歳下の妹とシリアに逃れた。工場で働いたが解雇され、売春行跡を承知の上で現在の職場にきた。妹も別のクラブで働く。

客と一晩過せば、以前働いた工場の月収を超える金が手に入る。バグダードの月に月四万、約四万円)を返済できるまでになった。三日に一度、母に電話し、三分間の短い報告をする。「仕事は楽しい」「今日は読書をした」とうそをついている。

こうした難民女性の行動を、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)は「サブバイバル(生き残るための)セックス」と呼び、問題を複化する。父親など一家の働き手を

失った若い女性が多い。イラクでは戦後の治安悪化に伴い、約四百万人の難民と国内避難民が発生。うち隣国シリアには計別で最大の百五十万人が逃れたとされる。

シリアは旧フセイン政権のイラクと衝突していた時も、四段階に追進された人々を受け入れていた。戦後の難民にも当初は寛容だった。

■高まる反感

しかし、難民の輩入に歯止めがからず、社会問題化して、物価は高騰し、子供が着て学校も足らない。低賃金のイラク人労働者に職を奪われる不安から、国民の反感が高まり、当局は昨秋、入国規制に転じた。

帰国する難民も出始めたが、不安定な治安情勢を嫌って、大半はシリアにとどまる。シリア人の手際を必死に探す。強奪もその一つだ。

区。イスラム教シリア派の重要なモスク(礼拝所)があり、シリア新多数を占めるイスラームの交差点も長い。そこに今、数十万のイラク人難民が身を寄せた。

週りで出会った多くの難民が口々に現状を告げた。二日の夜は三三三だ。ある男性(心はテロの犠牲者)と石目がまみり、肉体的働もできない。罪罰さでうやく食いつないでいるという。

ハムさん(と)暮らし、時々、イラク人が経営する娯楽施設を遊ぶ。店で聞く故国の歌や、イラクなまりのアラブ音楽が和み、ほんやり故郷を思い出すことがあれる。「でも、ここには出さずとも頼れる人もない」。すぐに喪失感がよみがえり、再び心を痛めてしま(写真)

◇

イラク戦争開戦から、千日で五年、アラクでは治安悪化が懸念され、復興の足踏しは立たない。今なお犠牲者が増やし続ける戦争の傷跡に苦しむ。その意味を白紙にする人々の姿を地に見つ。

左の資料は北海道新聞の3月18日国際面に掲載された、イラク開戦5年を特集記事です。

そこでは、19才の女性が「身売り」までしてイラクに残る家族の生活を支えなければならないこと。また、1日3ドルの稼ぎで生活をつないでいることなどが紹介されています。

こうして、イラク戦争開戦から5年をすぎてもなお、生命の安全のために隣国ヨルダン・シリアに逃れてきた難民の方たちの生活は日に日にその困難さが増加している実状を見ることが出来ました。

以上述べてきたように、2003年以来イラク戦争により発生したイラク難民の過酷な現実を彼らの実際の生活を通して見てくると、私は一日も早い難民問題の解決を願わざるを得ませんでした。

そして、そのためには、難民発生の根本原因である、イラク戦争を早期に、かつ平和的に終結させることが何よりも大切なのであります。

イラクに平和をもたらすためには、現地でも多くの難民の方々が口をそろえて主張するように、まず第一に、イラクからアメリカが撤退することです。アメリカの軍事支配が、実はイラク戦争を泥沼化させ、一方で、テロリ

スト集団には、争乱状態を作り出す絶好の口実を与えていることは、もはや周知の事実です。

にも関わらず、開戦当初から日本政府はアメリカが開始したイラク戦争を無条件に支持し、イラクに陸上自衛隊と航空自衛隊を派遣してきました。

そして陸上自衛隊が撤収した後も航空自衛隊をイラクに派遣し続け、イラク戦争遂行のためのアメリカ軍やその戦闘物資の輸送業務を受け持っています。

こうして、日本政府の自衛隊のイラク派兵は、第一に、専守防衛を基調とした自衛隊法や、海

外での軍事・武力活動を禁じた日本国憲法に違反していること。

第二に、アメリカによるイラク戦争の遂行を容易にし、一方、イラク戦争の終結や難民問題の解決を困難なものにしているのは明らかです。

私は、この平和憲法下で、あろうことが再び侵略する側の国民となって、イラクの人々とその将来に大変な被害を与えることに、やりようのない怒りと苦しみを感じています。本当につらい思いです。

従って、私は、イラク戦争を早期に終結させ、イラクに平和を実現し、難民として苦しんでいる人々が一日も早く、祖国に帰国できるようにするために、イラクへの自衛隊派兵を差し止める司法の判断を心から願うものであります。

以上で、私の意見陳述を終わります。

当会で扱っている書籍・DVDのご紹介

九条の会第2回全国交流集会報告集

2007年11月24日に開催された交流集会での発言・報告がもれなく紹介されています。九条の会呼びかけ人も、奥平康弘・加藤周一・澤地久枝・鶴見俊輔・大江健三郎の五氏が登場しています。 (B5版 88ページ 800円)

九条の会講演会～小田実さんの志を受けついで～

2007年7月30日に逝去された小田実さんの志を受けついでいこうと開催された講演会(2008年3月8日 渋谷)の記録です。三木睦子・井上ひさし・奥平康弘・澤地久枝さんの講演をはじめ、渡部宏(チェロ)山形明朗(ピアノ)演奏も収録されています。

(DVD 2,500円)

イラク戦場からの告発

当会の憲法セミナーに2度にわたって登場していただいているフリージャーナリスト西谷文和さんの現地取材をまとめたものです。 (DVD 1,000円)

平和へのアクション101+2(核戦争に反対する医師の会20周年記念出版)

ノーベル平和賞も受賞したIPPNW(核戦争防止国際医師会議)の元会長である、メリーウィン・アシュフォードさんの著書。「戦争やテロのない世界の実現に向けて」(副題)101+2の方法を示した「手引き書」。 (280ページ 2,600円+税)

* 当会事務局までご一報いただければ送付させていただきます(送料無料)。

会員の皆様に、会報「第1号」をお送りすることができ、大変うれしく思っています。まだ名前のない会報ですが、今後皆様の「9条への思い」を交流しあえるよう、定期発行をめざしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

2008年度 共同代表

黒川 一郎 札幌医大名誉教授
安田 慶秀 北大名誉教授
三上 一成 三上整形外科医院院長
薄井 正道 東北北海道病院院長
中井 秀紀 前北海道民主医療機関連合会会長
菅野 保 菅野歯科医院院長
能條多恵子 前富良野看護専門学校校長
落合 裕昭 元北海道作業療法士会副会長（新）
越田 靖夫 元北海道臨床検査技師会副会長（新）
< 幹事長 >
猫塚 義夫 勤医協札幌病院

今年度より共同代表に参加された越田靖夫さんのご紹介です。

自己紹介にかえて

越田 靖夫

昭和26年まだ雪の残る時期、高校生だった私はトラックの上で拡声器の機器を操作していた。2期目となるある道議会議員立候補者の選挙カーの上である。当時の社会科の教師から受けた授業が大きく影響していたと振り返ってみると思い当たることがある。そしてその教師は「憲法の前文と第二章・第十章は必ず読め」と何時も言い、更に「国際社会における崇高な理念と人類普遍の原理を表明したものだ」と教えてくれた。確かに米国の憲法前文では「国内の平安を保障し（略）我らとわれらの子孫の上に・・・」と自国のみの権利と保障を全面にだしている。

同じ年、就職のために公務員採用試験を受験。二次選考時の面接試験で「警察予備隊」についての意見を求められた。覚えたての持論を展開し、きな臭い将来不安をこめて政府批判を行った。学校への報告書には「国家公務員には100%不向きで不合格であろう」と書いた。しかし、試験官の間違いから合格通知がきて公務員の道を歩むことになる。以来私は、自分なりに正しいであろうと判断した考えは確実に言い行動に移すこととし、幸いにも職場でもそれを貫いてこれた。

戦時を中学生として経験し、戦後の解放感を味わった一人として、真の平和と自由を自問じじっくりと噛みしめたい今の心境でもある。

最後に第99条を「国民は、この憲法を尊重し擁護する義務を負う」と読み替えたい。今後とも御教授のほどよろしくお願いいたします。

<<会員の皆様へのご案内>>

まもなく、結成2周年講演会です。

結成集会には加藤周一先生、1周年では香山リカ先生をお招きして、貴重なお話をたくさんお聞きすることができました。今回は「靖国」問題の第一人者である高橋哲哉先生（東大教授）を講師にお迎えします。先生は翌日函館でも講演していただき、道南・医療九条の会立ち上げへお力をお借りすることになっています。

講演会は公開講演会として開催いたします。ご案内を同封いたしましたので、どうぞ広くお誘いいただければと思います。

なお、函館の講演会は

6月29日（日）15：30～ ホテル・テトラ（五稜郭公園そば）です。

会費の請求書を同封させていただきました。

この機会にぜひ会費の納入をお願いいたします。郵便振替用紙には、昨年度（07年度）未納の方は、2年分の請求としております。今年度分のみの方には「年会費」という請求になっております。（すでに納付済みの方には送付しておりません）

あわせて募金にもご協力いただけますと幸いです。今回の講演会のご案内は道央圏を中心として6000人の医師・歯科医師のみなさんにもお送りしています。郵送費などの経費も一定かかっております。なにとぞよろしくをお願いいたします。

その他、洞爺湖サミットに向けた様々な企画のご案内を同封させていただきましたので、どうぞご覧下さい。

会費納入で行き違いなどありましたら、大変申し訳ありません。

ご不明な点がございましたら、事務局までご一報いただけますよう、よろしくをお願いいたします。

事務局 〒001-0014 札幌市北区北14西3 8-3

電話 (011)758-2648

FAX (011)716-3927

<http://iryoyjyo.dosanko.org/>

(事情で更新が遅れています。申し訳ありません)

mail 9jyo@domniren.gr.jp